

SCHOOL DATA

〒261-0005 千葉県美浜区稲毛海岸5-7-1
 TEL 043-243-7120 FAX 043-244-6917
 ■児童数/222人 ■教職員数/24人 ■周辺環境/住宅地(埋立地) (平成21年5月1日現在)



【ビオトープでの観察会のようなす】



【水の中の生き物の調査】

ビオトープの概要

- 場所/学校敷地内
- 面積/400㎡
- 設置者/学校
- 設置した年/2002年
- 直近の改修年/2009年
- 主な管理者/教職員、緑化委員会の児童、グループ2000(環境に学ぶ)

【コンセプト】

「いのちの森」は、泉、小川(30m)、池(40㎡)を含む「雑木林」、「田んぼ」(約50㎡)、「原っぱ」(約50㎡)で構成され、森の中には、散策路、観察用の椅子、テーブル、空中デッキ、ツリーハウスがある。
 児童が、野生の生き物に触れ合うことにより、自然の仕組みを理解し、心豊かでやさしい子が育つことを期待している。また、身近な自然体験を通して自然の大切さに気づき、広く自然保護・再生の活動ができる人材を育成する。

【生息している動物】

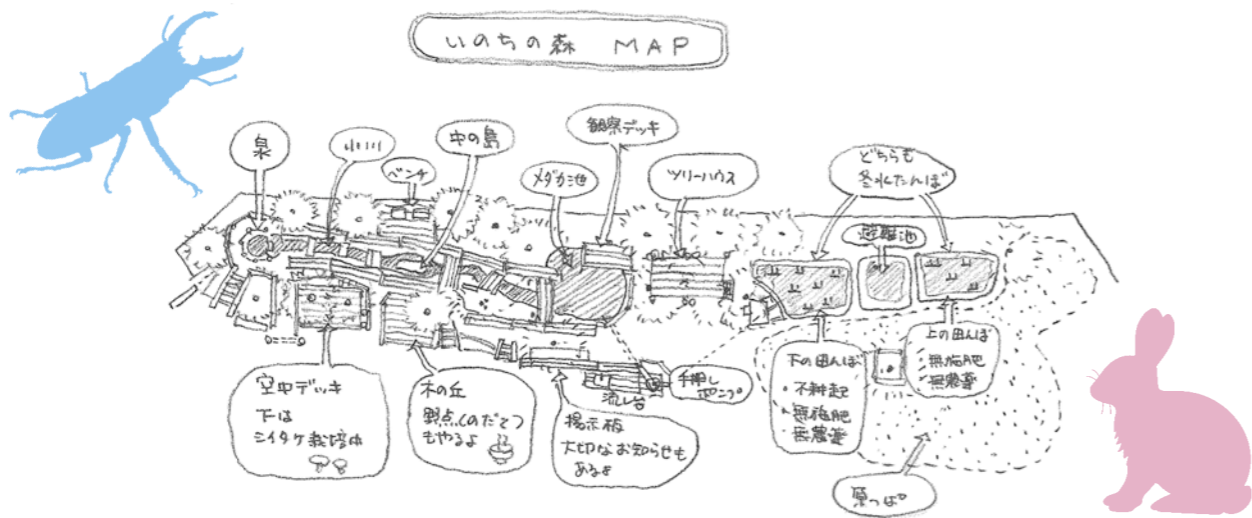
クロメダカ、ヘイケボタル、カワニナ、ギンヤンマ、イトトンボ、ニホンアカガエル、ツチガエル、ショウリョウバッタ、アオスジアゲハ、カナヘビ、他

【生育している植物】

サンカクイ、フトイ、ヨシ、セリ、クサイチゴ、キジムシロ、アズマネザサ、キツネノボタン、レンゲ、カタバミ、ギシギシ、ミズヒキ、ミゾソバ、他

【今後生息・生育させたい生物】

オニヤンマ、ニホンアマガエル、トウキョウダルマガエル、ニホントカゲ



【プログラム「種の旅」で森の中へ】



【脱穀のようす】



【これであなたもクモ博士!?(韓国EBS収録)】

ビオトープの活用方法

■児童・生徒

- ・ビオトープは、総合や理科、社会などの授業の中で生きた教材として活用できる。
- ・図鑑や映像だけでなく、実際に手に取り、触れることができる。
- ・学校便りや学校のウェブページを通して、定期的にビオトープの様子を保護者に伝え、環境保全に対する啓発活動を行う。
- ・高学年児童で構成する緑化委員会で観察、清掃を行う。

■地域住民

いのちの森の日を中心に、親子自然体験を通して自然への理解を深めたり、自由研究のテーマ探しにも活用できる。また、3世代交流の場としても活用できる。子どもたちは、お年寄りと交流することで、日本の伝統文化に触れる機会を得、お年寄りは子どもたちから生きがいや元気をもらう場や憩いの場にもなる。

ビオトープの効果

■児童への効果

- ・生物や環境についての授業でビオトープを活用することにより、動植物とその生態についての理解が深まる。
- ・生き物に触れることで、豊かな心が育ち、いのちを大切にすることが高まる。

■教職員への効果

- ・総合的な学習や理科、社会など様々な分野でビオトープを活用することができ、授業に広がり臨場感が生まれ、子どもたちの反応から、さらに新しい授業展開ができるようになる。

■保護者・地域住民への効果

- ・いのちの森の日で、保護者や近隣住民向けの観察会を開催することで、地域の人々が自然に親しむ機会が増えると共に、学校への理解が深まる。

■その他、期待される効果

- ・いのちの森の維持管理を学校、保護者、地域住民、環境ボランティアが一緒に行うことで、お互いの理解が深まり、地域コミュニティが促進される。

保護者、地域との連携

■保護者

- ・いのちの森の日の活動に親子で参加し、自然体験活動を行うと共に、維持管理にも取り組む。

■自治会、町会

- ・いのちの森の日の日本の伝統文化(日本の歳時記に関するプログラム)や田んぼ作りなどの農作業に講師(名人さん)として参加し、3世代交流を行う。

■NPO

- ・いのちの森の日の運営及び維持管理のノウハウを提供する。

■その他

- ・いのちの森の日を、千葉大などの学生の環境学習体験ととらえ、学生の受け入れを行う。

整備・活用・管理等の課題

- ・アズマネザサの根の除去をさらに進めたい。
- ・田んぼにもホタルが息をするようになったので、田んぼ周りの水路や避難池を新設し、補給水である井戸水を温めて田んぼに入れるようにしたい。
- ・不耕起の冬水田んぼを継続して5年目、小さな田んぼであるため土の力が不足しているようなので、天地替えを行うことになった。(12月頃予定)
- ・さらに、地域や保護者との連携を含めて、管理体制作りを進めていきたい。

今後の展望

埋立地であるこの地域にあって、貴重な自然環境としてその質を維持し、児童ばかりでなく地域の人にとっても環境学習や憩いの場となるようにしていきたい。

また、都心部での学校ビオトープのモデルとして、維持管理・活用の方法を広く紹介していくことで、学校ビオトープの意義、ひいては自然環境の大切さを訴えたい。

整備担当者(教員、児童、保護者等)から

- ・外来種をどう捉えるか、駆除するか、教材として活用するか今後とも検討していきたい。
- ・外来種については、増えすぎないように数を整理しながらも、時折その植物の強さに応じて大きく駆除することも必要だった。
- ・完成後7年目の池、小川の泥上げは重労働であった。やはり、3~4年で行うべきである。
- ・一度入ってしまったアズマネザサの下草刈りおよび根の除去は苦勞している。
- ・鳥が運んでくる樹木の種が水辺で発芽し、そのままにしておく土手に穴をあけたり、根が水辺を覆いつくしたりするので、定期的に除去することが必要である。



【紙芝居(これであなたもトンボ博士!?)】

SCHOOL DATA

〒298-0265 夷隅郡大多喜町小田代524-1
 TEL 0470-85-0011 FAX 0470-85-0546
 ■児童数/44人 ■教職員数/11人 ■周辺環境/水田 山林 (平成21年5月1日現在)



【みんなの手作り・学校ビオトープ】



【完成したビオトープ】

ビオトープの概要

- 場所/学校敷地内
- 面積/20㎡
- 設置者/学校
- 設置した年/2002年
- 直近の改修年/2009年
- 主な管理者/教職員 PTA 高学年児童

【生息している動物】

アカハライモリ、サワガニ、アマガエル、クロスジギンヤンマ

【生育している植物】

ハギ、ススキ、ゼニゴケ、タンポポ、ヨモギ、ウツギ

【今後生息・生育させたい生物】

クロゲンゴロウ、シマゲンゴロウ、ガムシ、ホトケドジョウ、モリアオガエル、マツモムシ、コオイムシ

ミニビオトープ

プール

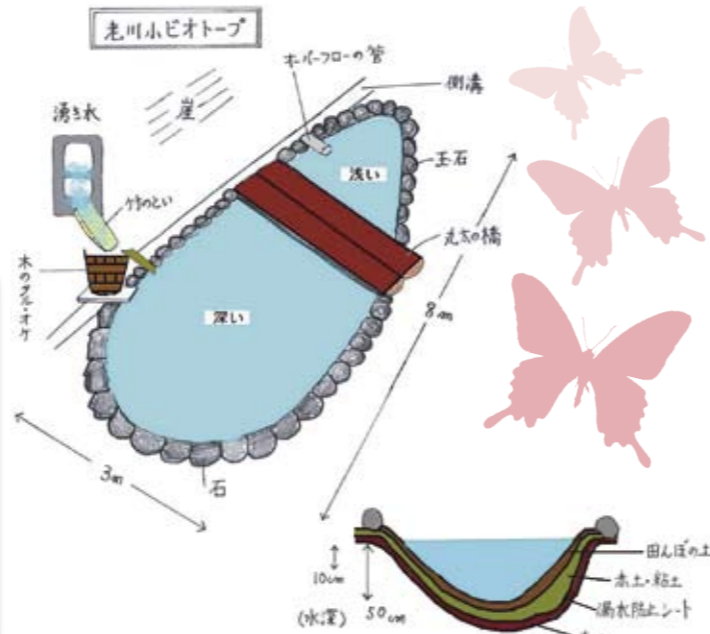
校舎

体育館

ミニ水田

【コンセプト】

本学区は、千葉県内においても昔ながらの自然環境が多く残されており、希少生物が多数見られる。しかし、近年の道路整備、耕作放棄の進行や耕地整理により、その環境は減少してきており、生態系も変化しつつある。このような中で、希少生物が生息できる環境を少しでも残していこうと、保全研究会が保全の取り組みを始めた。それに加え、2004年度から本校児童が自然観察会を実施し、地域の自然環境やそこに生息する生物について知るとともに、多様な生物が生息する環境の大切さを学んできた。その結果、こうした取り組みへの理解は地域にも広まりつつある。校内ミニビオトープやミニ水田を活用することにより、児童や地域住民の環境保全に対する意識を高め、児童の豊かな心を育成したいと考える。



【休耕田での観察会のようなす】



【収穫の秋・ミニ水田の稲刈り】

ビオトープの活用方法

■児童・生徒

- ・校内ミニビオトープでは、校外の観察地に生息する生物を継続して飼育・観察し、生活科や理科、総合的な学習の時間はもとより休み時間や放課後等日常的に学習に活用する。校外での自然観察会の際に児童が持つテーマを、観察会の場で終わらせてしまうのではなく継続して追究し続けられるようにする。
- ・ミニ水田では、イネとともに水田にすむ生物を飼育・観察する。米作りの体験だけでなく、水田が多くの生物の生命を育んでいることや私たちの生活が多くの生物とつながっていることを実感する。

■地域住民

- ・保護者や地域の方と自然観察会を実施すると共に、ビオトープの維持管理に参加していただき、環境保全に対する意識を高める。

ビオトープの効果

■児童への効果

- ・観察地（休耕田）での自然観察会を継続して行うことにより、多様な生物が生息する環境を体感することができ、地域の良さに気づいたり、環境保全に対する意識が高まったりする。また、自然に直接肌でふれることにより、豊かな心が育ち、生命尊重の意識が高まる。
- ・専門家を講師とし児童の興味関心に応じて観察会を実施することができ、生物に対する知識が深まるとともに動植物の種類や生態、生物同士のつながりについてより一層の理解が深まる。
- ・校内にミニビオトープやミニ水田をつくることにより、身近な環境にいる生物を日常的に観察することができ、理科や総合的な学習の時間の体験的な活動を通した内容理解や、生物への興味関心が高まる。

■教職員への効果

- ・生活科、理科、総合的な学習の時間等に、効果的に活用することができる。

■保護者・地域住民への効果

- ・児童と共に観察会に参加することにより、地域の環境についての認識を深めることができる。
- ・保護者や地域の方とビオトープの造成作業を行ったり、児童の学習活動の様子を保護者や地域住民へ伝えたりすることにより、学校への理解が深まるとともに、地域の自然環境を保全しようとする意識を啓発することができる。

■その他、期待される効果

- ・自然観察会の講師の方等、校外の多くの方と児童が接することにより、コミュニケーション能力が育成される。またキャリア教育にも発展する。
- ・絶滅が危ぶまれる希少生物を、保護することができる。

保護者、地域との連携

■保護者・地域住民

- ・今後、ビオトープ造成や自然観察会を共に行い、PTA活動と連携し、学校と保護者・地域住民が協力してビオトープの維持管理を行うようにしたい。

■NPO

- ・老川の自然を守る会や保全研究会等と連携し、自然観察会を継続していくとともに、ビオトープの活用について指導・助言を仰ぐ。

整備・活用・管理等の課題

- ・児童の学習への活用について、学年ごとに教科別に計画を立てたい。
- ・本校は小規模校であり、児童数・職員数共に少ない。維持管理について職員の校務分掌や児童の委員会活動に位置づけしていきたいと考えるが、学校だけでビオトープの維持管理をしていくのは困難である。保護者や地域住民の方々との協力して維持管理していく体制を作る必要がある。

今後の展望

- ・これまで継続してきた、校外での自然観察会と連携し、観察地である休耕田の生物を校内で継続して観察していけるよう、自然観察会で採取した生物の一部を移し入れ、定着させたい。また、学校のプールに産卵にくるモリアオガエル等、学校周辺に生息する生物が、ビオトープに住みついてくれることを期待している。
- ・児童や保護者、地域住民、教職員にとって、地域の自然環境について認識を深め、環境保全への関心を高めるものにしていきたいと思う。

整備担当者(教員、児童、保護者等)から

- ・保護者や地域の方を始め、校外の関係団体の方々等、多くの方にご協力いただきミニ水田の改修、ビオトープの造成を行うことができたことに感謝している。今後も、多くの方と連携しながらビオトープを活用、維持管理し、児童の学習に役立てていきたい。



【生き物のふしぎに気づく全校授業】